

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

京都橘大学（以下、本学）を設置する学校法人京都橘学園は、1902（明治35）年、女子教育の先覚者であった中森孟夫により京都市上京区に設立された京都女子手芸学校を起源とする。京都橘大学は、1967（昭和42）年に英文学科、国文学科および歴史学科の3学科から編成される文学部のみの単科の女子大学、橘女子大学として京都市山科区に開学した。以来、「力を実業教育に注ぎ、将来自営独立の実力を得しめん」とする建学の精神に基づき、現代社会の変化と社会的要請に応えるため、絶えず教学内容の改革と充実に取り組み、現代社会にふさわしい深い専門的知識・技能と豊かな教養を身につけた「自立した女性」を育成することに努めてきた。

2005（平成17）年には、「自立」「共生」「臨床の知」を教学理念に掲げ、男女共学の総合大学として再編する総合的な改革を行った。この改革では、現代社会が抱える諸課題に正面から取り組む教育と研究を行うため、新学部として京都府の私立大学では初めてとなる看護学部を開設し、文化政策学部現代マネジメント学科を設置した。その後も、社会の要請に応えた人材養成を行うべく継続的な改革を行っている。近年では、人々の心と体の健康を支える人材を育成する健康科学部、高度な英語運用能力と国際性を備え、国際社会に貢献する人材を育成する国際英語学部、児童教育・幼児教育を担う人材を育成する発達教育学部、AI時代に向けた新たな人材を育成する経済学部・経営学部・工学部を設置し、人文系・社会科学系・工学系・医療系等幅広い分野にわたる学部教育を展開している。近年の改革のなかで、本学では2021（令和3）年度の工学部の設置に伴い工学系・情報系教育を強化している。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

デジタルメディア学部デジタルメディア学科〔高等学校一種（情報）〕

情報系人材の不足は今後も深刻化が予測されている。また、情報系技術を基盤としたメディアのデジタル処理・生成技術やデジタルコンテンツ産業は今後の社会・産業の成長のために重要性がますます高まっており、これらを担う人材の養成と輩出は急務となっている。本学では、2021（令和3）年度に工学部情報工学科を設置し、情報系人材の不足という課題への対応を始めている。今後はこの課題への対応をさらに強化するとともに、情報技術を基盤としたメディアのデジタル処理・生成技術やデジタルコンテンツ制作技術を駆使することで社会インフラ・基幹産業を支える人材を養成していくことの必要性を特に認識している。

以上の背景と必要性のもと、本学はデジタルメディア学部デジタルメディア学科を新たに開設することとした。デジタルメディア学科では情報技術を基盤として、メディアのデジタル処理・生成（メディアエンジニアリング）とそれらを活用したコンテンツ制作（メディアクリエイション）を軸とした人材を養成することで、社会的な要請に応えていくこととする。

工学部ロボティクス学科〔高等学校一種（工業）〕

少子高齢化や人口減少に伴う労働力不足など、我が国が直面している様々な社会課題の解決や新たな価値創出を行う手段として、ロボティクスが果たす役割は大きい。この社会課題が今後も拡大し、深刻化していくことが確実視されていることから、ロボティクスとそれを担う人材需要は今後ますます増加していくと考えられる。加えて、特定の関連分野では既に人材の不足が表出していることを鑑みると、ロボティクスを担う人材の養成と輩出は急務となっているといえる。そのため、本学では、ロボティクスの専門知識・技術を駆使することで社会課題に応じた実用的

な解決策を提供できる人材を養成する必要性を特に認識している。

以上の背景と必要性のもと、本学は工学部ロボティクス学科を新たに開設することとした。ロボティクス学科では、ロボティクスに必要な数理的知識や論理的思考力、プログラミング能力等を基盤とした情報工学・AI、機械工学、電気・電子工学、制御工学などの専門知識の修得、それらを統合してロボットや機械システムを設計・開発、制御、運用する実践的技術を身につける教育を展開する。また、社会課題に実践的にアプローチする力をつけるため、企業等との連携を通じて、具体的な事例からそのプロセスや手法を深く理解させる教育を行う。これらによる人材養成を行うことで、社会的な要請に応えていく。

## (2) 教員養成の目標・計画

### ①大学

京都橘大学は、2005（平成17）年度に京都橘女子大学から校名を変更し、男女共学とした。同時に教学理念を従来の「自立した女性の育成」から「自立、共生、臨床の知」へと発展させ、幅広い市民的教養と専門的知識を持ち、地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成に努めている。教育課程は、設置する学部・学科の専門領域を機軸としつつ、初年次から系統的な共通教育科目（教養教育科目群やキャリア形成科目群）を配置して社会とのかかわりを重視したものにしている。

このような教育課程を基礎として、教員として必要な特定の教科に関する専門的な学力の養成につとめながら、生徒を取り巻く環境やさまざまな問題に適切に対処できる力量をもった教員の養成をめざしている。

本学の教学理念である「自立」を実現するためには、なにより、幅広い教養と専門的な知識をあわせもち、それによって社会に貢献できる人材になることが必要である。本学が養成したい教員像は、まさに、幅広い教養のうえに専門的な知識をもった教員であるといえる。一方、現在、地域社会のあり方、家族のあり方も大きく変化しつつあり、教育においてもそれらが反映したさまざまな問題が生じている。このような状況に適切に対応できる指導力のある教員の養成が望まれるところである。そのためには、本学の教学理念の第二番目「共生」の基本となる人間と社会の成り立ちについての理解と他者とのコミュニケーション能力の育成が重要であり、これらを基礎として共生社会を築くことができる教員の養成が望まれる。最後の「臨床の知」との関連では、それぞれの学部・学科で学ぶ専門的知識が実際の社会とどのようなかかわりをもつのかを絶えず意識し、また、学問と社会とのかかわりを意識した教育活動を行うことができる教員を育成するように努めているところである。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

デジタルメディア学部デジタルメディア学科〔高等学校一種（情報）〕

デジタルメディア学部デジタルメディア学科は、情報工学を基盤としてメディアをデジタルに処理・生成するための技術と表現力を身につけ、それらを活かして様々なシステムやコンテンツを構築・制作・活用することにより、社会・産業の課題解決や新たな価値創造に貢献できる人材を養成する。この人材養成目標を実現するために、次のとおり教育課程を編成する。

「演習科目群」として、専門教育課程に沿った課題の解決過程を学ぶとともに、卒業研究としてアウトプットすることをめざす科目を中心に配置する。具体的には、情報リテラシーやコミュニケーションスキル等、デジタルメディア学科での学びの基礎的リテラシーを修得する「アカデミックスキル」、デジタルメディア分野の研究分野を幅広く概観する「デジタルメディア研究入

門」、専門課程に沿った課題解決過程を学ぶ「プロジェクト演習基礎」「プロジェクト演習Ⅰ～Ⅳ」、卒業研究を行う「卒業研究」を配置する。これら専門的知識や技術を活かした課題解決過程の修得や卒業研究による調査・研究等を通じて、デジタルメディアに関する専門的知識の深化や新しい技術を学び続けようとする意欲等の醸成を図る。

「基礎科目群」として、数学を含む情報工学の基礎に関する科目と本学科専門教育の学びの起点となる科目を中心に配置する。具体的には、情報工学を学ぶための導入的な数学を扱う「メディア数学基礎」「基礎情報数学」等、情報工学の基礎的理論・技術を扱う「コンピュータシステム概論」「データ構造とアルゴリズム」等を配置する。このうち、特に導入的な位置づけとなる「メディア数学基礎」「コンピュータシステム概論」を必修とする。また、本学科専門教育の学びの起点として、メディアに関する技術や社会での活用等を概観する「メディア学入門」を配置し、これを必修とする。これらの科目を通じて基礎的な情報工学の知識等を獲得し、専門教育を学修するための基礎を構築する。

「基幹科目群」として、デジタルメディアに関する基幹的技術や、メディアのデジタル処理・生成およびデジタルコンテンツの制作を概観する科目を中心に配置する。具体的には、メディアのデジタル処理・生成とデジタルコンテンツの制作の基幹的技術を学ぶ「プログラミング演習Ⅰ～Ⅲ」「メディアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、これら2領域を概観する「メディアエンジニアリング概論」「メディアクリエイション概論」等を配置する。このうち、基幹的技術を扱う「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「メディアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」を必修とする。これらデジタルメディアに関する基幹的技術の学びを通して、デジタルメディアを生成・処理し表現する専門知識の基盤を獲得していく。また、プログラミングの学びを中心として、問題の解決手順を論理的に理解し、コンピュータ上で処理するための思考力の醸成を図る。

「展開科目群」として、メディアのデジタル処理・生成（メディアエンジニアリング）およびデジタルコンテンツの制作（メディアクリエイション）について専門的に学ぶ科目を中心に配置する。この科目群は学生の志向に応じた学びを促すことができるよう、複数の科目区分からなる。具体的には、「メディアエンジニアリング領域」と「メディアクリエイション領域」からなり、さらに「メディアエンジニアリング領域」は特に画像について扱う「ビジュアルエンジニアリング」と特に音声について扱う「サウンドエンジニアリング」から、「メディアクリエイション領域」はゲーム系コンテンツを扱う「ゲームクリエイション」と画像・映像系コンテンツを扱う「ビジュアルクリエイション」、音楽系コンテンツを扱う「サウンドクリエイション」からなる。これら両領域の学びを通じて、ディプロマポリシーに示すデジタルメディアを生成・処理し、表現するための専門的知識や、それを実践する技術を身につけていく。なお、デジタルメディア学科では学びの体系性を担保しつつ学生の幅広い志向に応じた学修を促進するよう、上記5つの科目群「メディアエンジニアリング」「サウンドエンジニアリング」「ゲームクリエイション」「サウンドクリエイション」「ビジュアルクリエイション」の科目を中心とした4種類のモデルコース「メディアエンジニアリング」「サウンドエンジニアリング&クリエイション」「ゲームクリエイション」「ビジュアルクリエイション」を編成し、履修モデルとして学生に示していく。

「ソーシャル展開科目群」として、マーケティングやプロジェクト管理等、専門知識・技術の社会展開について学ぶ科目を中心に配置する。具体的には、マーケティングを扱う「コンテンツマーケティング論」「デジタルマーケティング論」、プロジェクト管理手法を扱う「プロジェクト管理」等を配置する。これら実務的な方法論等を通じて専門性の運用力を高めることで、社会の課題解決等に貢献する意欲・態度の醸成を図る。

「クロスオーバー科目群」として、デジタルメディアに関連する他分野について学ぶ科目を中心に配置する。具体的には、コンテンツ産業・文化の分野や、脳科学・認知心理学の分野等の科目を配置する。これらの科目を通じて専門的知識の拡張や視野の拡大を促し、新しい技術を学び続けようとする意欲・態度の醸成を図る。

2022（令和4）年度から高等学校において「情報Ⅰ」が必修となったことから、情報の免許を有する教員の需要はますます高まると考えられる。近年の情報技術の飛躍的發展にも対応できる、より幅広く高度な知識と技量を備えた教員を養成することを目標とする。

#### 工学部ロボティクス学科〔高等学校一種（工業）〕

工学部ロボティクス学科は、情報工学・AI、機械工学、電気電子工学、制御工学等関連分野の専門知識・技術を身につけ、それらを統合して人間社会で活用することにより、人々の豊かな生活の実現や社会・産業の課題解決、新たな価値創造に貢献できる人材を養成する。この人材養成目標を実現するために、次のとおり教育課程を編成する。

「演習科目群」として、専門教育課程に沿った課題の解決過程を学ぶとともに、卒業研究としてアウトプットすることをめざす科目を中心に配置する。具体的には、情報リテラシーやコミュニケーションスキル等、本学科での学びの基礎的リテラシーを修得する「アカデミックスキル」、問題解決に必要な基礎スキルを学ぶ「プロジェクトマネジメント」、ロボティクス分野の研究分野を幅広く概観する「ロボティクス研究入門」、専門課程に沿った課題解決過程を学ぶ「プロジェクト演習Ⅰ～Ⅴ」、卒業研究を行う「卒業研究」を配置し、このうち学修の段階に合わせて、学びを深化させる「アカデミックスキル」「ロボティクス研究入門」「プロジェクト演習Ⅰ～Ⅴ」「卒業研究」を必修とする。これら専門的知識や技術を活かした課題解決過程の修得や卒業研究による調査・研究等を通じて、ロボティクスに関する知識や技術を駆使して課題解決をするための論理的思考力や倫理観の醸成を図る。

「専門横断科目群」として、ロボティクス共通科目と数理・データサイエンス科目を配置する。ロボティクス共通科目は、ロボティクスの基盤となるプログラミング科目や関連専門分野の知識を統合し、ロボットや機械システムの設計、製作、制御技術を修得することを目的に配置する。具体的には、導入的な役割を担う「ロボティクス概論」、プログラミングの基礎から応用までを学ぶ「プログラミング演習Ⅰ～Ⅲ」、ロボティクスの基礎となる幾何学や力学を学ぶ「ロボティクス基礎」、および実際のロボットを用いてその仕組みや動作方法を学ぶ「ロボティクス実験Ⅰ～Ⅱ」を必修として配置する。さらに、高年次には、ロボットに特化したプログラミングを学ぶ「ロボットプログラミングⅠ～Ⅱ」や、ロボティクスの知識や技術を実社会に応用するための「ロボティクス社会実装」「オープンイノベーションプロジェクト」「技術者倫理」を配置する。これらの科目を通じて、関連専門分野の学修で得た知識や技術を統合し、それらを活用する能力を培うことをめざす。数理・データサイエンス科目は、ロボティクスに必要な数理科目とデータサイエンス科目を中心に配置する。具体的には、「基礎情報数学」「ロボティクス数理Ⅰ～Ⅳ」「ロボティクス物理Ⅰ～Ⅱ」「データサイエンスⅠ～Ⅱ」など、ロボティクスを学ぶ基盤となる科目を配置し、特に「基礎情報数学」「ロボティクス数理Ⅰ～Ⅱ」「ロボティクス物理Ⅰ」を、関連する専門分野の修得に不可欠な基礎科目として必修とする。これらの科目を通じて、ロボットや機械システムの設計、製作、制御に必要な数理的知識の修得を図る。

「専門領域科目群」として、ロボティクスを構成する多様な分野から「機械系科目」「電気・電子系科目」「計測・制御系科目」「知能情報系科目」を配置する。具体的には、まず「機械系科目」に、ロボットや機械システムの精密な機構設計や運動原理を学ぶ「機械工学基礎Ⅰ～Ⅱ」

「製図・CAD演習」「機械要素・機構設計」「応用機械力学・材料力学」等を配置する。次に「電気・電子系科目」には、ロボットを動かすためのエネルギーやその制御を学ぶ「電気回路」「論理回路」「電子回路」を配置し、「計測・制御系科目」には、ロボットの感覚機能や判断・調整の仕組みを学ぶ「センシングⅠ～Ⅱ」「画像処理」「音声・言語処理」「制御工学Ⅰ～Ⅱ」を配置する。最後に「知能情報系科目」には、ロボットが情報を処理し、判断し、動作を適応させる仕組みや、人間と自然で効果的な相互作用を行うための技術を学ぶ「人工知能」「ロボット行動計画」「ヒューマンロボットインタラクションⅠ～Ⅱ」「パターン認識・機械学習Ⅰ～Ⅱ」等を配置する。このうち、各分野の基盤となる科目である「機械工学基礎Ⅰ」、「電気回路」、「センシングⅠ」、「人工知能」を必修とする。これらの科目を通じて、ロボティクスに関わる各分野の専門知識を体系的に身につけることを目指す。

「クロスオーバー科目群」として、ロボティクスに関連する他分野について学ぶ科目を中心に配置する。具体的には、医療・工学の連携分野、産業経済・経営管理の分野、創造性・起業マネジメントの分野等の科目を配置する。これらの科目を通じて専門的知識の拡張や視野の拡大を促し、新しい技術を学び続けようとする意欲・態度の醸成を図る。

文部科学省「令和6年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」によると、2024（令和6）年5月現在、工業高校には約20万人の生徒がおり、技術革新が著しい現代社会において、工業高校は専門知識と実務経験を兼ね備えた技術者を育成する重要な教育機関であると言える。継続的に発展を遂げているロボティクス関連産業にも対応できる、より幅広く高度な知識と技量を備えた教員を養成することを目標とする。

### （3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

#### デジタルメディア学部デジタルメディア学科〔高等学校一種（情報）〕

現行の高等学校学習指導要領では、情報科の学習目標として、「情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。（2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。（3）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。」と記載されている。

これらを教育する能力は、上述のとおりデジタルメディア学科での学習によって身につけることができる能力であり、デジタルメディア学科において高等学校一種（情報）の教職課程を設置する意義があると考えられる。

#### 工学部ロボティクス学科〔高等学校一種（工業）〕

現行の高等学校学習指導要領では、工業科の学習目標として、「工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。（2）工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。（3）職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と記載されている。

これらを教育する能力は上述のとおりロボティクス学科での学習によって身につけることができる能力であり、ロボティクス学科において高等学校一種（工業）の教職課程を設置する意義があると考えられる。

## 様式第7号イ

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

組織名称：	京都橘大学教職保育職支援センター
目的：	京都橘大学における教職課程の円滑な運営および教職保育職を志望する学生への就職支援のために必要な事業を行うことを目的とし、次の業務を行う。 (1) 教職課程の運営に関すること。 (2) 教職課程の申請に関すること。 (3) 教職保育職を志望する学生（卒業生を含む）への就職支援に関すること。 (4) 支援センター業務における自己点検・評価活動およびFD活動に関すること。 (5) 支援センター業務における関係機関との連携に関すること。 (6) 支援センター紀要の刊行に関すること。 (7) リカレント教育の実施に関すること。 また、支援センターに運営委員会を置き、運営委員会は、支援センターの事業計画とその具体的企画内容、およびそれらの自己点検を行う。
責任者：	教職保育職支援センター長
構成員（役職・人数）：	運営委員会：センター長（委員長）1名、副センター長1名、教務部長1名、教職保育職支援センター教員4名（1名は副センター長）、教職課程を有する各学科から選出された専任教員各1名、人文系事務課長（事務局）1名 計17名
運営方法：	年3回の定期開催に加え、必要に応じ委員長が招集し、教職課程の運営に関する事項について審議・立案し、大学評議会に提起する。

## (2) (1) で記載した個々の組織の関係図

様式第5号と同一の組織図

## II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

## (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、神戸市教育委員会との間で教育提携の協定を締結し、学校ボランティアやインターンシップ、教師塾など、教員養成に関し連携を行っている。
- ・京都地区の国公私立大学が加盟する京都地区大学教職課程協議会や、京都市教育委員会が組織する京都市教員養成連絡協議会などの場を通じ、教員養成の在り方や教育実習の改善などについて、恒常的な意見交換を行っている。同会では、学校現場の意見なども報告・交流されている。

## (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校ボランティア（京都府・京都市）、スクールサポーター（滋賀県・神戸市）
連携先との調整方法：	上記協定にもとづく京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、神戸市教育委員会の仲介に限らず、個々の学校から個別の要請がある場合や、学生の居住地などで希望する学校がある場合でも、担当事務局が窓口となり、学生へ情報提供、希望者募集、必要な照会・手続きを行う。その際、学生には大学として「ポ

## 様式第7号イ

	ランティア登録」をさせ、ボランティア保険の確認を行い、学長名（または教職保育職支援センター長名）の「紹介書」を発行して、学生の参加を指導、援助している。
具体的な内容：	<p>大学が立地する山科区内の公立学校（特に市立小・中学校）へは、学生を恒常的に学校ボランティアとして送り出している。また、山科区外の学校へも、要請・要望に応じ、学生を送り出している。</p> <p>学生ボランティアの内容は、支援が必要な生徒の授業補助（学習支援ボランティア）、放課後のクラブ活動補助（部活ボランティア）、英語ボランティア、読み聞かせボランティア、その他である。養護教諭課程履修者による学校保健室での補助活動もある。また、通常期間の活動の他、運動会やキャンプ指導など、学校行事の多様な場面でも、その都度要請に応じて参加している。</p>

## Ⅲ. 教職指導の状況

	<p>学生の履修指導については、入学直後、新入生に対して行う「新入生教職課程履修ガイダンス」から始まる。その後、教職課程履修希望者は、毎年実施される学科別履修ガイダンス、資格課程ガイダンスなどで集団的指導を受け、大学生生活の早期から段階的に、教職課程履修者としての自覚を醸成されるようになってきている。また、学科を単位として全学に配置する1年次から4年次までの少人数ゼミを通じて、担当教員が面談などの個別的指導を行う体制をとっている。教育実習の訪問指導についても、教職課程担当教員任せでなく、原則として教職課程履修者が所属するゼミ担当教員が行い、学科毎に情報を集約し、学習指導にフィードバックできるよう全学体制としている。教職課程の履修に関しては、G.P.A.を基準とした履修条件を設定し、面談指導と併せて安易な履修をさせないようにしている。</p> <p>Iで述べたとおり、教職課程を運営する全学組織としては、教職保育職支援センターを設置している。具体的な取り組みとしては、教職課程の科目編成の検討、教職課程履修上の条件設定と評価・検証、教育実習指導の検討・実施、採用試験対策等課外で行う教員志望学生への支援策の組織、地域連携取組の企画・立案・実施などを行っている。</p> <p>採用試験対策としては、学生の3回生次の「教職進路登録」により、卒業後の進路として明確に教職を目指す者（支援対象者）を確定し、センター4名の専任教員が支援対象者全員に対し面接を行うことから始めている。その後、個別指導（カウンセリング）を継続しながら教師としての職業観や教育観の理解を高める。教員採用試験を目前に控えた4回生に対しては、教員採用試験対策講座などを開講するとともに、それと並行して模擬面接や模擬授業、模擬筆記試験、実技試験指導など、実践的な採用試験対策を試験の直前まで行う。また、教員採用試験の早期化・複線化に伴い、3回生受験を希望する学生に向けての支援も2024年度より前倒しで開始している。</p> <p>教員採用試験終了後から卒業までの期間は、学校現場を想定した実践指導を実施する。各教科における模擬授業や学級担任時の場面指導を通じて、学校現場での授業・学生対応がスムーズに行えるよう取り組む。</p> <p>また、講師として働いている卒業生に対しても、採用試験合格のための支援を積極的に行っている。現職の教員（卒業生を含む）を対象としたリカレント講座も実施しており、卒業後も、学校現場において中核を担う能力を有する教員育成に力を注いでいる。</p>
--	---

## 様式第7号ウ

## ＜デジタルメディア学部デジタルメディア学科＞（認定課程：高一種免（情報））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>①入学直後の教職課程履修ガイダンスにて、4年間の教職課程についての理解を深め、学習動機を涵養し、大学生活と教職へのキャリアを前向きにスタートする。また、教職の意義や教員の仕事等を正しく理解した上で、教員として必要とする能力および基礎知識を修得する。</p> <p>②外国語コミュニケーションやITリテラシーの基礎等を学ぶ。</p> <p>③情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理・情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術の各分野について体系的・系統的に理解するための科目履修を開始する。</p> <p>④学校ボランティア等で、教育現場に足を運ぶ。</p>
	後期	<p>①後期開始時および終了時に教職課程ガイダンスに参加し、今後の学修イメージを明確化すると共に、後期終了時には履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>②教育実践に関わる教育の基礎的・基本的な問題や高校生の教育と発達に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解したうえで、高校情報科教員として必要とする情報に関する科学的な見方・考え方および基礎知識を修得する。</p> <p>③学校ボランティア等に継続的に参加し、現場の観察を進める。</p>
2年次	前期	<p>①特別支援教育や総合的な学習の時間等について学び、生徒理解に関する基礎的な理論と実践法を深める。</p> <p>②情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術について、基礎的な内容を修得する。</p>
	後期	<p>①特別活動や教育相談、教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）について学び、応用的な教育実践力を養う。</p> <p>②情報の各分野の応用の学修幅を広げる。</p> <p>③ガイダンスを通して教員採用試験への理解を深め、後期終了時には履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>④学校ボランティア等に継続的に参加し、学校現場への理解を深める。</p>
3年次	前期	<p>①高校情報科教員の基本となる教科の目標や特徴を理解したうえで教材研究や授業作りを行い、「学習指導案」を作成する。</p> <p>②情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を向上させる。</p> <p>③生徒指導、生活指導、進路指導についての基本概念と指導法を学び、いじめや体罰等学校現場で起こりうる課題に対応できる知識・技術を修得する。</p> <p>④教育実習の準備を通して、教育観の確立と教育実践力を高める。</p>
	後期	<p>①高校情報科教員の基本となる教科の目標や特徴、学習指導要領を踏まえて教材研究や授業作りを行う授業実践力を身につける。</p> <p>②教育実習の準備を通して、多様な課題の発見と考察を進める</p> <p>③後期終了時に履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>④教員採用試験に向け、計画的な学習を進める。</p> <p>⑤先輩学生による教育実習体験報告会などを通して、確固たる教職への志を養う。</p>
4年次	前期	<p>①学習指導要領の内容を十分に理解し、教材研究を行い、学習指導案を作成し、2週間の教育実習校において実践する。</p> <p>②教育実習を通して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。また、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につける。</p> <p>③教員採用試験合格を目指し、受験する。</p>
	後期	<p>①教職実践演習を通じて、履修カルテを活用し、大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質・能力が要求されるのかを再認識する。</p> <p>②今後教師になるための意識を高め、自己に必要な知識や技能、課題を明確にする。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜デジタルメディア学部デジタルメディア学科＞（認定課程：高一種免（情報））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	メディア学入門		英語 I A	アカデミックスキル
		教職入門	プログラミング演習 I		英語 I B	
					ITリテラシー	
					スポーツコース I	
	後期	教育心理学	基礎情報数学		日本国憲法	
			コンピュータシステム概論		データサイエンス基礎	
			プログラミング演習 II		スポーツコース II	
			メディアエンジニアリング概論		体育理論	
2年次	前期	特別支援教育論	データ構造とアルゴリズム	学校経営と学校図書館		中等教職教養講義 I
		教育課程論	コンピュータグラフィックス I	学校図書館メディアの構成		デジタルメディア研究入門
		総合的な学習の時間の指導法	サウンドメディア処理 I	読書と豊かな人間性		プロジェクトマネジメント
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	サウンドスケープ論	情報メディアの活用		
	後期	教育制度論	コンピュータネットワーク	学習指導と学校図書館		中等教職教養講義 II
		特別活動論	人工知能			プロジェクト演習基礎
		教育相談	コンピュータグラフィックス II			
			ビジュアルメディア処理 II			
			サウンドメディア処理 II			
			音楽創作論			
		先端科学技術				
3年次	前期	生徒・進路指導	サウンドデザイン論			中等教職教養講義 III
		情報科教育法 I	データベース論			プロジェクト演習 I
		教育実習指導				
	後期	情報科教育法 II	Webアプリ開発実践			プロジェクト演習 II
		教育実習指導				
4年次	前期	教育実習指導				プロジェクト演習 III
		教育実習 II				
	後期	教育実習指導				中等教職教養講義 IV
		教育実習 II				プロジェクト演習 IV
	教職実践演習(中等)				卒業研究	

## 様式第7号ウ

## ＜工学部ロボティクス学科＞（認定課程：高一種免（工業））

## （1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>①入学直後の教職課程履修ガイダンスにて、4年間の教職課程についての理解を深め、学習動機を涵養し、大学生活と教職へのキャリアを前向きにスタートする。また、教職の意義や教員の仕事等を正しく理解した上で、教員として必要とする能力および基礎知識を修得する。</p> <p>②外国語コミュニケーションやITリテラシーの基礎等を学ぶ。</p> <p>③工業の関係科目について体系的・系統的に理解するための科目履修を開始する。</p> <p>④学校ボランティア等で、教育現場に足を運ぶ。</p>
	後期	<p>①後期開始時および終了時に教職課程ガイダンスに参加し、今後の学修イメージを明確化すると共に、後期終了時には履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>②教育実践に関わる教育の基礎的・基本的な問題や高校生の教育と発達に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解したうえで、高校工業科教員として必要とする見方・考え方および基礎知識を修得する。</p> <p>③学校ボランティア等に継続的に参加し、現場の観察を進める。</p>
2年次	前期	<p>①特別支援教育や総合的な学習の時間等について学び、生徒理解に関する基礎的な理論と実践法を深める。</p> <p>②工業に関する科目について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術について、基礎的な内容を修得する。</p>
	後期	<p>①特別活動や教育相談、教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）について学び、応用的な教育実践力を養う。</p> <p>②工業の各分野の応用の学修幅を広げる。</p> <p>③ガイダンスを通して教員採用試験への理解を深め、後期終了時には履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>④学校ボランティア等に継続的に参加し、学校現場への理解を深める。</p>
3年次	前期	<p>①高校工業科教員の基本となる教科の目標や特徴を理解したうえで教材研究や授業作りを行い、「学習指導案」を作成する。</p> <p>②職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を向上させる。</p> <p>③生徒指導、生活指導、進路指導についての基本概念と指導法を学び、いじめや体罰等学校現場で起こりうる課題に対応できる知識・技術を修得する。</p> <p>④教育実習の準備を通して、教育観の確立と教育実践力を高める。</p>
	後期	<p>①高校工業科教員の基本となる教科の目標や特徴、学習指導要領を踏まえて教材研究や授業作りを行う授業実践力を身につける。</p> <p>②職業指導の授業を通して、高校教員として進路指導を担当できる能力、具体的には、職業教育及びキャリア教育に関する知識、現在の産業社会の現状に関する知識・情報、高校生に対する進路指導を行う実践力を身につける。</p> <p>③教育実習の準備を通して、多様な課題の発見と考察を進める。</p> <p>④後期終了時に履修カルテを利用し、現時点での到達度の確認と今後の学修計画を立てる。</p> <p>⑤教員採用試験に向け、計画的な学習を進める。</p> <p>⑥先輩学生による教育実習体験報告会などを通して、確固たる教職への志を養う。</p>
4年次	前期	<p>①学習指導要領の内容を十分に理解し、教材研究を行い、学習指導案を作成し、2週間の教育実習校において実践する。</p> <p>②教育実習を通して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。また、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につける。</p> <p>③教員採用試験合格を目指し、受験する。</p>
	後期	<p>①教職実践演習を通じて、履修カルテを活用し、大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質・能力が要求されるのかを再認識する。</p> <p>②今後教師になるための意識を高め、自己に必要な知識や技能、課題を明確にする。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜工学部ロボティクス学科＞（認定課程：高一種免（工業））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	プログラミング演習Ⅰ		英語ⅠA	アカデミックスキル
		教職入門			英語ⅠB	
					ITリテラシー	
					スポーツコースⅠ	
	後期	教育心理学	プログラミング演習Ⅱ		日本国憲法	
			ロボティクス物理Ⅰ		データサイエンス基礎	
			確率・統計		スポーツコースⅡ	
			電気回路		体育理論	
2年次	前期	特別支援教育論	プログラミング演習Ⅲ	学校経営と学校図書館		中等教職教養講義Ⅰ
		教育課程論	ロボティクス基礎	学校図書館メディアの構成		ロボティクス研究入門
		総合的な学習の時間の指導法	ロボティクス実験Ⅰ	読書と豊かな人間性		プロジェクトマネジメント
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	機械工学基礎Ⅰ	情報メディアの活用		
	後期	教育制度論	ロボティクス実験Ⅱ	学習指導と学校図書館		中等教職教養講義Ⅱ
		特別活動論	機械工学基礎Ⅱ			プロジェクト演習Ⅰ
		教育相談	製図・CAD演習			
			電子回路			
			センシングⅠ			
			人工知能			
3年次	前期	生徒・進路指導	応用機械力学・材料力学			中等教職教養講義Ⅲ
		工業科教育法Ⅰ	機械要素・機構設計			プロジェクト演習Ⅱ
		教育実習指導	センシングⅡ			
			制御工学Ⅰ			
			パターン認識・機械学習Ⅰ			
	後期	工業科教育法Ⅱ	制御工学Ⅱ			プロジェクト演習Ⅲ
		教育実習指導	パターン認識・機械学習Ⅱ			
			職業指導			
4年次	前期	教育実習指導				プロジェクト演習Ⅳ
		教育実習Ⅱ				
	後期	教育実習指導				中等教職教養講義Ⅳ
		教育実習Ⅱ				プロジェクト演習Ⅴ
		教職実践演習(中等)				卒業研究